

足利赤十字病院神経精神科を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	若年性認知症の初期症状である言語症状/視空間障害を明らかにする後ろ向き研究
当院の研究責任者	船山道隆（神経精神科）
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	変性疾患による若年性認知症は変性疾患の中でも社会的支援が最も必要となる認知症ですが、約半数の例で記憶障害以外の症状を呈することから、確定診断までに時間がかかり適切な支援を受けられない例が少なくありません。むしろ若年性認知症の典型的なパターンは、進行性失語と進行性の視空間障害（発症最早期から道に迷う、自動車の事故を起こすなどの視空間障害を呈する後部皮質萎縮症）です。本研究の目的は若年性認知症の初期に現れた言語症状と視空間障害を取り上げ、記憶障害を呈した若年性認知症の方と比較した上で、進行性失語と後部皮質萎縮症の早期診断に結びつく分かりやすい臨床症状を提示していただくことです。
調査データ該当期間	1998年1月から2020年6月まで診療情報を調査対象とする
研究の方法	★対象となる患者様 1998年1月から2020年6月に当院神経精神科病棟および当院認知症疾患センター内の神経精神科物忘れ外来（旧メモリークリニック）に入院/通院した70歳未満で発症した変性疾患による認知症の方です。 ★利用する情報 診療録に記載されている認知症の下位分類（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症など）、認知症の重症度（Clinical Rating Scale）、スクリーニングの認知機能検査（改訂版長谷川式簡易知能評価スケール、Mini-Mental State Examination）、掘り下げ検査として言語症状を呈した場合には標準失語症検査法や失語症語彙検査、視空間症状を呈した場合には視空間機能検査（Trail Making Test、視空間ワーキングメモリ課題）、さらに画像所見（頭部MRI、CT、SPECT）から、進行性失語および後部皮質萎縮症に典型的な所見を明

	らかにします。
情報の他の研究機関への提供	なし
個人情報の取り扱い	利用する情報から患者様を直接特定できる個人情報は削除しています。また研究成果は学会発表や論文化を予定していますが、その際も患者様を直接特定できない形式となっています。
本研究の資金、利益相反	ありません
お問い合わせ先	電話 0284-21-0121 担当者：神経精神科 船山道隆